

第17回陸側遮水壁タスクフォース議事概要

日時：平成27年11月17日（火）13：30～15：30

場所：経済産業省本館9階 西8共用会議室

出席者：大西主査、西垣委員、赤川委員、丸井委員、下戸委員、松尾委員、井尻委員、伊東委員、東京電力、鹿島建設、尾澤審議官、江口対策官、豊口企画官、水野調整官、伊奈補佐

議事概要：

議題1. 1号機タービン建屋滞留水処理について、東京電力より説明。【資料1】

<主なコメント>

- このタスクフォースで議論する建屋滞留水処理では、どのレベルまで水位を下げる
こととしているのか？
→陸側遮水壁等により地下水位を低下させるのとあわせて、建屋内水位を低下させていく予定。建屋ごとに床面の高さが違うため、まずは床面の高い1号機タービン建屋、次いで1号機廃棄物処理建屋の順で、ドライアップしていくことを想定している。床面の低い原子炉建屋が最後に残るが、これはデブリの取り出しと密接に関係するため、本タスクフォースとは別に検討をする必要がある。
- 雨水が建屋へ流入すると床面のドライアップが達成できないが、雨水の流入抑制対策はどうされるのか？
→はじめに滞留水処理を行うこととしている1号機タービン建屋には、一部屋根が破損している箇所があるため、雨水が流入したとしても流入量以上の排水能力を持つポンプを設置することで対応することを考えている。

議題2～4. 陸側遮水壁の工事の進捗、試験凍結、水位管理について、鹿島建設、東京電力より報告。【資料2、3、4】

<主なコメント>

- 水位の上昇や低下について、汲み上げた水量も含めた水収支から整理するべき。
- 凍結開始にあたり、どのようなことが確認されれば良いということになっているのか？
→次回の特定原子力監視・評価検討会にて、原子力規制庁から陸側遮水壁閉合に向けての確認事項を提示する予定。

- 資料4-2のページ18で記載している「従って、地下水の流れは建屋へ流れ込む方向となってきた。」と「陸側遮水壁閉合によって山側からの地下水流入が低減しても、建屋水位と逆転する懸念は小さくなったと考えている。」の根拠を、データを元に、より丁寧に説明する必要があるのではないか。

- サブドレン稼働後の建屋近傍の水面形を確認するためには、各サブドレンピット間の観測井があると望ましいが、実現可能か？
→サブドレンピット間の観測井の増設は、難しい。

- リチャージ井に注入する水の温度を測定できるようにしておくこと。
→リチャージ用にタンク内に保管してある水の温度を測定することとする。

以上